

## 令和5年度 地域自立支援協議会 相談支援ネットワーク部会 活動報告

令和6年度3月11日

相談支援ネットワーク部会長 杉本美乃  
(地域活動支援センターコット)

### 【活動の目標】

- ・令和5～6年度 地域自立支援協議会の活動方針

「障害のある人が地域で暮らす権利を護るために、当事者とともに武蔵野市の地域課題に取り組む」

- ・相談支援ネットワーク部会のミッション

「多様な相談支援(計画相談に限定しない)の事例検討を通じて、重層的な相談支援ネットワークの強化に向けた武蔵野市の地域課題について提言する」

上記のミッションのもと、「こんなサービスがあったらいい」「現場での困り事」を感じる事例をあげていき、地域課題を検討していくことを目指す。

### 【部会活動日程・内容】

- 第1回 7月13日 部会名の決定、今年度の取り組みについて
- 第2回 8月29日 現場での困り事や希望などの事例を各自提出しキーワードを浮上
- 第3回 10月17日 第2回を踏まえて、各自キーワードと思うものを発表
- 第4回 12月4日 居場所と感じられる社会資源に繋がった事例発表(ビーと)
- 第5回 1月9日 居場所と感じられる社会資源にうまく繋がらなかった事例発表(コット)
- 第6回 2月6日 ①2回の事例検討を振り返っての感想②私にとっての「相談支援とは何か」をグループにて検討(積雪のため zoom 開催)

### 【今年度の概要】

今年度新設された「相談支援ネットワーク部会」では、重層的な相談支援ネットワークの強化に向けた地域課題の提言を抽出するため、まずは、現場の声を確認すべく各部員から事例を提出してもらい、その中からキーワードを浮上させることになった。その中で多くの部員から出されたキーワードは「居場所」であった。そこで、「ネットワーク強化のために必要な『居場所』とは何かを考えていく」こととし、障害種別を超えて居場所に繋がった事例と、居場所に繋がらなかった事例を比較検討し、その中から相談支援とは何かを振り返ることになった。2つの事例とグループワークを通して、改めて「つながる」という言葉が各部員から多く浮上した。この「つながる」は利用者だけでなく、支援者同士がお互いに情報共有し、柔軟に支援につなげていくという意味でもあり、市が掲げる「重層的」という視点にも繋がっていると思われる。

### 【次年度に向けて】

次年度は、主に利用者が気軽に社会とつながれるような居場所の在り方や、支援者同士がネットワークを形成し、つながる仕組みとはどういうものかを検討していく予定である。また、その過程で必要な資源やサービスなどが新たに抽出できた際には、地域課題としてあげていく。

以上